

標準委員会 リスク専門部会 津波PRA分科会
第18回津波PRA分科会議事録

1. 日 時 2013年5月14日(月) 13:30～16:30

2. 場 所 電中研本部 第1会議室

3. 出席者(敬称略)

(出席委員) 山口主査(阪大), 桐本幹事(電中研),
安中委員(東電設計), 喜多委員(TEPSYS), 倉本委員(NEL), 黒岩委員(MHI),
鈴木委員(原安進), 竹山委員(中電), 成宮委員(関電),
西尾候補(藤本委員代理)(JNES), 松山委員(電中研), 高田委員(東大)
美原委員(鹿島建設), 織田(守屋委員代理)(日立GE)(14名)

(欠席委員) 蛭沢副主査(JNES), 秋山委員(CTC), 杉野委員(JNES), 佐竹委員(東大),
中井委員(JAEA), 平野委員(JNES)(6名)

(常時参加者) 根岸(GIS), 杉本(東電), 橋本(原安進), 菊池(四電), 林(関電), 高橋(鹿島),
福江(廣川代理)(TEPSYS)(7名)

(傍聴者) 青井(MNEC)(1名)

(敬称略)

4. 配付資料

- | | |
|--------------|--|
| RK2SC 18-1 | 第17回津波PRA分科会議事録(案) |
| RK2SC 18-2-1 | 人事について(津波PRA分科会) |
| RK2SC 18-2-2 | 津波PRA分科会 委員名簿 2013/5/14版 |
| RK2SC 18-3 | 津波ハザード評価とフラジリティ評価の繋がり(案) |
| RK2SC 18-4-1 | 津波PRA標準改訂(地震随伴)検討課題整理表 |
| RK2SC 18-4-2 | 6章「事故シナリオの同定」:地震・津波の重畳を考慮するための検討
項目について |
| RK2SC 18-4-3 | 地震動と津波の結合確率評価方法 |
| RK2SC 18-4-4 | 今後の予定(地震PRA実施基準の改定状況) |
| RK2SC 18-4-5 | 地震PRA実施基準改定にかかる課題の整理状況(津波関係抜粋) |
| RK2SC 18-5 | 津波PRA分科会主要スケジュール |
| 参考1 | 第17回津波PRA分科会議メモ(案) |

5. 議事内容

議事に先立ち、開始時点で委員 20 名中 14 名が出席しており、分科会成立に必要な定足数(14 名以上)を満足している旨が報告された。

(1) 議事録確認(RK2SC 18-1)

前回議事録について、資料 RK2SC 18-1 に基づいて桐本幹事から説明があり、誤記修正の上、承認された。

(2) 人事について(RK2SC18-2-1, RK2SC18-2-2)

桐本幹事より、以下の人事案件の報告があった。

- ・ 委員の退任
藤本 春生 (JNES)
木下 智之 (原子力規制庁 (旧 原子力安全・保安院))
- ・ 常時参加者の退任
佐竹 祥宏 (原子力安全推進協会)
- ・ 委員の移籍
平野 光将 (東京都市大学, 業種: 学識経験者) (JNES, 業種: 関係官庁等)

また、以下の人事案件について、審議の結果、承認された。

- ・ 委員の登録【承認事項】
西尾 正英 (JNES)
- ・ 常時参加者の登録【承認事項】
高橋 容之 (鹿島建設)
橋本 和典 (原子力安全推進協会)
林 健太郎 (関西電力)

(3) 津波ハザード評価とフラジリティ評価の繋がりについて(RK2SC18-3)

美原委員から、資料 RK2SC 18-3 により、津波ハザード評価とフラジリティ評価の繋がりについて説明がなされた。

次の改訂にあたっては本資料の評価グレード 3A を推奨する方向で、附属書として記載するイメージで、一様ハザードスペクトル、シナリオ津波の考え方と不確かさについては、各専門分野の委員が補強し、資料をまとめていくこととする。また、防潮堤等の特定の設備により、その後のパラツキが増幅されるような場合のフラジリティの評価について考え方を入れられるかどうか検討していくこととする。

(4) 地震 PRA 標準とのすり合わせについて (RK2SC 18-4-4, RK2SC 18-4-5)

成宮委員から、資料 RK2SC 18-4-4, RK2SC 18-4-5 により、地震 PRA 標準とのすり合わせについて説明がなされた。

津波 PRA 実施にあたり地震影響を評価する必要がある機器を分科会の審議で抽出し、現在地震分科会で取り上げられていない機器が抽出された際には地震分科会へ提供していくことを確認した。またマルチユニットの評価については地震分科会で先行して議論していることから、津波評価においてもなぞる方向とする。

(5) 津波 PRA 標準改定（地震随伴）検討課題について（RK2SC 18-4-1）

倉本委員から、資料 RK2SC 18-4-1 により、津波 PRA 標準改定（地震随伴）検討課題について説明がなされた。資料 RK2SC 18-4-1 各章について、黒岩委員（6章）、安中委員（7章）、美原委員（8章）、喜多委員（9章）から説明がなされた。

地震動と津波高さのバラツキの相関、スクラムの考慮についての議論があり、それらの議論も踏まえて、4-1の資料をブラッシュアップしながら改訂案を作成し、検討を継続していく。地震標準との棲み分けについては、地震津波の議論をしていく中で要求項目がある程度見えてきた時点で判断していく。新安全基準との関連も踏まえ、津波ハザードの定義位置を変更する必要があるかどうかは、継続して議論する。地震により発生する津波以外（山体崩壊による津波等）を適用範囲とするかどうかについては、別途分科会で議論することとした。

(6) その他

次回分科会は8月1日の午後を予定。

以上